

気高リサイクルドリームハウスについて

気高リサイクルドリームハウスは、省資源を推進し市民にふれあいの場を提供する施設として旧気高町時代に整備され、合併とともに鳥取市の施設となりました。しかし、下記の理由のため、今後運営を継続することは困難と判断し、今年 8 月末をもって休館とさせていただきたく方針といたしましたことをご報告いたします。

【施設概要】

所在地：鳥取市気高町浜村 590 建設費：4,081 万円（うち じげおこし交付金 2,000 万円）

木造平屋建て 190.3 ㎡

木工室：万能プレナー、木工旋盤 **金工室**：旋盤、カッター、グラインダー

研修室兼談話室／事務室／ストックヤード

【開館】平成 4 年（1992 年）4 月（23 年目）

【管理形態】事業委託（施設管理及び作業指導等の事業運営を行う管理人 1 名配置）

【予算(27 年度)】 ①管理委託料：1,704 千円 ②施設警備：117 千円

③その他管理費：828 千円 合計：2,649 千円



【利用者数の推移】

利用者は1,000人前後だが、近年は減少傾向にある。

年度	22	23	24	25	26
有料利用者	416人	344人	390人	282人	302人
減免利用者	550人	955人	90人	491人	51人
利用者計	966人	1,229人	480人	773人	353人

【管理人からの申し出】

管理・運営を委託している管理人は、開館以来、本施設の管理運営に携わり、来館者の木工製作への指導を行ってきた。しかし、高齢（80歳）のため、体調を崩されることが多くなり、昨年11月には、1週間入院するなど、継続して管理を続けられるか心配な状況となってきた。管理人本人からも、体調面で自信がないため、27年度の契約は締結するが、1年間継続して管理・運営することは自信がないと申し出があった。

【施設を継続するかどうかの検討】

管理人からの申し出を受けて、今後の施設の運営について検討した結果、次の理由から27年度中の施設の廃止が望ましいと結論付けた。

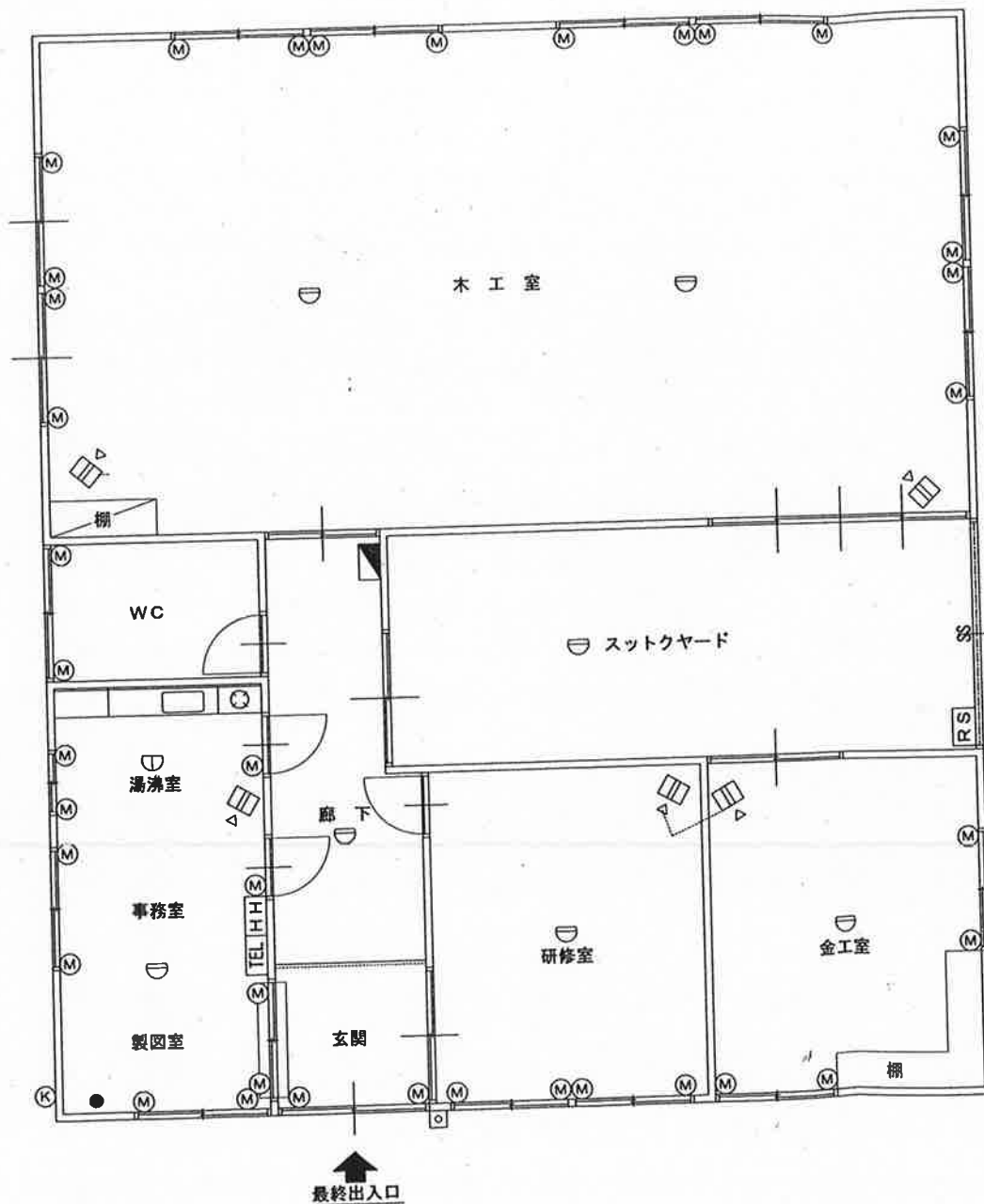
【廃止理由】

- ①近年、利用者数が減少しており、利用料収入に比して費用対効果の極めて低い施設となっていること。
- ②使用済み資源（廃材、ビン、ガラスなど）を活かして作品を作ることが設立目的であるが、近年は廃材等は使用されなくなっており、リサイクル啓発施設としての機能が発揮されず、単なる木材加工体験施設となっている。
- ③木工機械などの備品が老朽化し修繕・更新が必要なものが多いが、修繕等には多額の経費が掛かる。現在の利用状況等を考慮すると特別に予算を確保するのは困難である。
- ④木工機械等を更新せずに使用を続けるとなると、利用者の安全管理の面から不安がある。
- ⑤現在の老朽化した備品を使用するには、現管理人の知見・技能がないと不可能と判断される（古い機械をだましまし使っているため、現管理人以外の者では、指導が難しい）。そのため、後任者を探すにしても適任が見当たらない。
- ⑥現管理人の健康状態や年齢（80歳）から、利用者の安全管理、施設運営等、そろそろ限界にきている。
- ⑦代替施設としてリファーレンいなばのリサイクルファクトリー（木工を含む加工体験あり）がある。
- ⑧開館から23年、十分に施設の設置目的は達成できたと考えられる。

【今後の方針】

27年度中に気高リサイクルドリームハウスを廃止する。27年9月1日から休館し、9月議会で施設の条例を廃止する。今後、地元（気高地域振興会議等）、定期利用者、浜村小、気高中等への説明、同意を経て、市議会へは6月議会の建設水道委員会にて説明する。

また、今後、廃止後の施設利用の方向性について検討を進めることとする。



平面図